

## 5日 日曜

### I サムエル

19:8 再び戦いが起こった。ダビデは出て行って、ペリシテ人と戦い、彼らを討って大損害を与えた。彼らはダビデの前から逃げた。

19:9 わざわいをもたらす、【主】の靈がサウルに臨んだ。サウルは自分の家で座っていて、手には槍を持っていた。ダビデは豎琴を手にして弾いていた。

19:10 サウルは槍でダビデを壁に突き刺そうとした。ダビデがサウルから身を避けたので、サウルは槍を壁に打ちつけた。ダビデは逃げ、その夜は難を逃れた。

19:11 サウルはダビデの家に使者たちを遣し、彼を見張らせ、朝に彼を殺そうとした。ダビデの妻ミカルはダビデに告げた。「今夜、自分のいのちを救わなければ、明日、あなたは殺されてしまします。」

19:12 そして、ミカルはダビデを窓から降ろし、彼は逃げて難を逃れた。

19:13 ミカルはテラフィムを取って、寝床の上に置き、やぎの毛で編んだものを頭のところに置き、それを衣服でおおった。

19:14 サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。ミカルは「あの人には病気です」と言った。

19:15 サウルはダビデを見定めるために、同じ使者たちを遣わして言った。「あれを寝床のまま、私のところに連れて来い。あれを殺すのだ。」

19:16 使者たちが入って見ると、なんと、テラフィムが寝床にあり、やぎの毛で編んだものが頭のところにあった。

19:17 サウルはミカルに言った。「なぜ、このようにして私をだまし、私の敵を逃がして、



聖書の記述

逃れさせたのか。」ミカルはサウルに言った。「あの人、「逃がしてくれ。私がどうしておまえを殺せるだろうか」と私に言ったのです。」

サウルは自分のために生き、不安からダビデを敵とみなしました。ダビデは主のために生き、それゆえ王を敵とせずに従順でした。ダビデは王位を求めていなかったのです。しかしそれゆえに彼は王となる備えをすることができたのです。

そしてサウルの娘までもが彼を助けました。周囲はダビデの人柄を認めたのです。このように主に従順で私心のない人は、主によって守られるゆえに、その味方を増やすことができます。人を味方につけようというのではなく、ただ主のために生きましょう。

またサウルが預言するのは不思議でもあります。すべては神の主権であることがわかります。超自然的なわざが、必ずしも御心にかなう人によってなされるとは限りません。人は主の前にいつでも謙遜であるべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

